第3種郵便物認可

近郊版

砂の民1
大沢啓三
水彩協会

ニュース、情報は下記へ
社会部
052-231-1650・5919
Eメール
shakai@chunichi.co.jp

春日井支局　〒486-0844
春日井市鳥居松町3－60
0568-81-2036　Fax81-2797
犬山通信局
0568-61-2612　Fax61-2613
小牧通信局
0568-72-1177　Fax72-6530
瀬戸支局
0561-82-3121　Fax82-5316
一宮総局
0586-72-4545　Fax72-5035
江南通信部
0587-54-4001　Fax54-9622

中日新聞へのご意見は
読者センターへ
052-221-0800　Fax221-0819
Eメール
center@chunichi.co.jp

掲載写真を購入希望の方は
最寄りの中日新聞販売店へ

供養のかけこみ寺
葬儀　供養　樹木葬
格安供養
大法寺
気軽にお話ししましょう
0567-28-7319
愛西市稲葉町江頭10番地
樹木葬 大法寺　検索

近郊版エリア自治体 3市町でゼロ

男性の育休 進まぬ取得

近郊版エリアの自治体で男性職員の育児休業取得が進んでいない。各市町が公表した二〇二一年度の男性職員の取得は、犬山市や扶桑町、大口町でゼロ、小牧市も六人にとどまった。各自治体は積極的な取得を促しているが、職員数が限られる中、なかなか広まらない実態が浮かぶ。（水越直哉、水谷元海、長谷川和華）

犬山市では、男性職員も最長三年間の育休を取ることができる。しかし二一年度に権利を得た十六人のうち、取得者はゼロだった。

二二年度もいない見込みだという。

市の担当課長は「職場に迷惑をかけると抵抗があり、育休取得が進まないのだと思う。なんとか増やしたいのですが。頭を悩ませています」と声を落とす。

市では一七年に、育休を取りやすい職場環境づくりに取り組む姿勢を示すため、管理職が「イクボス宣言書」に署名したものの、効果は見えない。

大口町も過去三十年で男性の取得はわずか二人で、子どもが生まれた職員に積極的に取るよう促しているという。町は二一年九月の議会で、取得が進まない理由について「周囲の目を気にして利用をはばかる」「祖父母が近くにいる」「収入が減る」などが想定されると答弁した。

小牧市では二一年度、四十人の男性職員が新たに育休の権利を得た一方、取得は六人だった。一九年度は二人で年々増加はしているが、取得率は高いとは言えない状態だ。

市は、職員の子育てに関する制度をまとめた「子育てハンドブック」を作り、出生から八歳までの間に、四週を上限に取得できる「産後パパ育休」などを紹介。昨年九月には、育休中の手当金を職員が自分で計算できる算出フォームも公開した。人事課の担当者は「育休中の金銭面の不安を和らげるのに役立ててもらえれば」と話す。

一方、男性職員の取得率が比較的高いのが春日井市だ。二一年度は十七人（取得率23・3％）で、二〇年度の八人（同11・8％）から倍増した。その前年はわずか三人だったが、人事課によると、うち一人がそれまでほとんど育休取得のなかった技術系の職員で、これをきっかけに同僚で取る人が出てきた。

同課の担当者は「技術系はもともと男性の割合が高く、育休を取るという意識が薄かったようだが、若手を中心に変わってきている」と話す。二二年度も十二月時点で取得率は二割を超えており、過去に一例だけだった消防職員でも数人から申請や相談が出ているという。

豊山町も男性の取得者は二人（対象者五人）で、取得率で見れば高くなっている。

国の調査によると、二一年度に新たに育児休業を取得した男性職員は、国家公務員で34％に上った一方、全国の市町村の平均では24・2％だった。このエリアのある自治体の職員は「小さい組織ほど、一人の職員が受け持つ業務が多く、代えがきかない。カバーできる人手も少なく悩ましい」と話している。

小牧市が作成した職員向けの子育てハンドブックなど＝小牧市役所で

職場に迷惑かける／金銭面に不安

春日井市議会

最大会派 自由クラブ分裂

5人脱会 新会派結成

春日井市議会の最大会派「自由クラブ」に所属していた五人が脱会し、十六日に新会派「春日井クラブ」を立ち上げた。代表は奥村博史さんが務める。自由クラブでは四日付で奥村昇次さんが除名扱いとなり、県議選出馬を表明している伊藤貴治さんも十二日付で脱会し、事実上の分裂状態となった。

春日井クラブの他のメンバーは堀尾国大さん、安達保子さん、前田学さん、梶田正直さん。五人は十三日の自由クラブの会合で脱会を表明し、十六日に議会事務局に結成届を出した。奥村昇次さんと伊藤さんを含め、いずれも理由は「方針の違い」としている。自由クラブは依然、最大会派ながら七人となった。

奥村博史さんは同日、取材に「会派の運営方針に異議があり、これ以上一緒にやっていくのは難しいと判断し、新会派を結成した」と説明した。

今後の方針については「市長のいいところは応援し、問題点はしっかり訴えていくが、安心安全なまちづくりや子育て施策を中心に、自由クラブで言ってきたことと変わらない。全般的には市と協力してやっていく」と語った。

自由クラブは十六日、代表が友松孝雄さんから加納新滿さんに交代した。加納新代表は「四月に選挙を控え、人事面でも会派内でいろいろあったことで、前代表が責任を感じて辞任の意向を示していた」と述べた。脱会者が相次いだことには「考え方に違いがあったのではないか」と話すにとどめた。（磯嶋康平）

◇

新会派発足に伴う春日井市議会の会派構成　自由クラブ七人、公明党五人、春日井クラブ四人、市民クラブ四人、共産党四人、無会派五人

式典で「火の用心」三唱をする参加者ら＝小牧市小牧2の市民会館で

防火へ決意新た　小牧・消防出初め式

小牧市の消防出初め式が十四日、同小牧二の市民会館であり、消防職員や防団員、観覧の市民ら約四百人が防火の思いを新たにした。

式典では、山下史守朗市長が「大規災害時には自助、共助、公助の連携、力が大変重要」と呼びかけた。長年活している消防団員らへの表彰や、参加全員での火の用心三唱などもあった。天のため、式典後の分列行進やはしごりなどは中止し、会場内で小牧高吹奏部などが演奏を披露した。

市消防本部によると、昨年の市内の災件数は前年と比べて四件少ない三十件で、一九六四年に統計を取り始めてら二番目に少なかった。（水谷元海）

透明感ある

春日井の愛好家 3年ぶり作品展

春日井市内の絵の好き男性たちでつくる「水彩スケッチの会」の作品展十六日、市役所の市民サンで始まった。新型コロウイルス禍で恒例のスケチに出かけられず、三年りの開催となった。二十日まで。

二〇一六年に活動を終た水彩画グループ「虹会」の一部会員が、新しメンバーを加えて一八年

個性的な力作がそろった水彩画展＝春日井市役所の市民サロンで

筆運び 真剣な表情で

小牧 書き初め大会に800人

小牧市書道連盟の書きめ大会（中日新聞社後援）が十四、十五両日、市内